

— 3.11 東日本大震災に遭遇して —

平成23年3月11日に発生いたしました東日本大震災によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。

当センターにおいては職員の人的被害はなかったものの、親戚の方や知人を亡くされた職員がおります。つい先日まで“あって当たり前の普通の生活”を瞬く間に一変させた自然の猛威に言葉を失うとともに、私たちが普段いかに恵まれた環境の中で生活を送っていたかを改めて感じさせられました。

震災から1ヶ月が経過しましたが、強い余震がまだ続いております。

津波による甚大な被害を受けた沿岸地域は、以前の日常を早く取り戻そうと懸命に復旧作業が行われています。そのような中でライフラインの迅速な復旧が進められた地域や、損壊した道路や橋がたった1日で修復された箇所もあり、その作業の早さ・技術力には復興に向けた日本の底力を感じました。

当センターでも建物や設備に大きな被害を受けましたが、本来の業務が早期に正常化できるよう職員一丸となって復旧作業に取り組んでおります。

また、全国の多くの方々から当センターへのお見舞いとともに励ましをいただきました。改めて感謝とお礼を申し上げます。

なお、この震災により、予定しておりましたいくつかのイベントを延期または中止とさせていただき、関係の方々にはご迷惑をお掛けしましたこととお詫びいたします。センター内の体制が整いましたら改めてご案内を差し上げます。

まだ厳しい状況に直面しているところではありますが、東北地域復興のため研究機関としてできる限りの協力をして参ります。

東北産学官連携センターNewsletter 編集委員会



Contents

産総研 東北
Newsletter No.34

3.11東日本大震災に遭遇して	①
制度紹介:産総研の産学官連携メニュー「技術相談」	②
イベント報告:産総研本格研究ワークショップ/東北航空宇宙産業広域連携フォーラム他...	③
研究情報:「千葉石(ちばせき)」発見! /20万分の1地質図幅を掲示	⑥

制度紹介

産学官連携メニュー 技術相談

産総研には技術相談窓口があり、具体的な技術課題の解決方法などについて相談を受け付けています。

他業務と兼任して技術相談窓口を担当している東北産学官連携センターの米谷さんにお話を伺いました。

技術相談の窓口を担当して2年になります。主に企業からの技術相談が多いのですが、町の発明家からのご相談にも喜んで対応しますよ。もちろん相談は無料です。

相談の内容は「（企業で扱っているものについて）困っているがどうしたらいいか」「新分野への進出を検討中だが、シーズはないか」などで、国内外から東北センターが得意とする超臨界流体の利用技術や粘土膜について相談がくることも多いです。産総研の特許技術を使いたいという相談や、産総研の前身である工芸指導所についての質問、マスコミ情報を見た企業の営業の方から打診があることもあり、年間100件ほどになります。

他の研究機関等に相談したが解決できなかったという難問もあり、すべて自分ひとりで解決できるものではないので、他の研究者と協力しながら情報の交通整理役となって回答をします。中には、自分で考えても人に聞いても答えがみつからないケースもあって、回答を待っている相談者を思い心を痛めています。まだお返事できていない方へ、この場を借りて申し上げます。「ごめんなさい」

研究者を紹介して解決法を探っている間に、共同研究に発展するケースもあります。相談をしていただくことは、産総研の研究者にとっても研究の幅を広げる機会になるということですね。

私は、産総研の役割はオープン・イノベーションだ

独立行政法人 産業技術総合研究所
東北センター 東北産学官連携センター 米谷 道夫



と思っています。研究者と企業と一緒に知恵を出し合って仕事をする。ただし、研究者は自分の研究をきちんと持っていることが前提です。つまり、社会に還元する部分と、還元できるものを作るために自由な研究を進め深い知恵を蓄えておく、そのバランスが大切です。

技術相談は社会への貢献の糸口と自負し、窓口を担当しています。



東北センターでは、ホームページの技術相談窓口入力フォームや電話 022-237-5206 で相談を受け付けています。

お気軽にご相談ください。

産総研本格研究ワークショップ in 東北

2月14日 仙台ガーデンパレスにおいて、「産総研本格研究ワークショップ in 東北ー東北地域のオープンイノベーションにおける試験研究機関の役割ー」を開催しました。

120名を超える出席者を迎え開催された本ワークショップでは、東北地域における本格研究の実践に向けて3例の研究成果を発表しました。また、産学官の有識者を交えたパネルディスカッションでは、企業ニーズの収集方法や産総研と公設研との協力体制などについて貴重な提案や要望が出され、産総研が今後果たすべき役割など大きく3つのテーマについて以下のような議論となりました。

①「産学官連携、オープンイノベーションはまだ進んでいないのでは?」のご意見や、「大学と地域の中小企業をつなぐ役割を産総研に期待する。例えば、大学と大企業の共同研究に地域の中小企業を入れるなどはどうか」とのご意見をいただきました。

②「産総研は企業ニーズを十分聞いていないのではな



いか」というご指摘に対しては、「地域の企業のニーズの吸い上げは公設研が行い、産総研は基礎

研究と最新シーズの紹介などその後の支援やプロジェクトの取りまとめを行うべきだ」と

いうご意見や、「いろいろな機関が同様の取り組みをやっているの、中小企業のニーズ吸い上げはまとめてやり、データベースを共有してはどうか」というご提案がありました。またここで、「中小企業は産総研のシーズを知らない。産総研の知名度が低い」といったご指摘があり、それに対しては「産業技術指導員制度をもっと活用すべき」とのご意見をいただきました。

③「産総研と公設研の協力の仕方はどうあるべきか」という課題に対しては、「目的基礎研究は産総研が、商品化研究は企業が得意なので、早めに技術移転するのがよい」、「企業・公設研・産総研が役割分担した形でテーマ設定の絞り込みを行うべきである」など、さまざまなお発言がありました。「産総研は基礎から応用までつながった研究をやっているが、事業化研究も必要」、「東北の目標や戦略を示す仕事に産総研のイニシアチブが期待されている」など、貴重なご意見をいただいた実りの多いワークショップとなりました。



東北航空宇宙産業広域連携フォーラム2010

2月15日 仙台ガーデンパレスにおいて、産業技術連携推進会議 東北地域部会 東北航空宇宙産業研究会 (TAIF) の主催で、「東北航空宇宙産業広域連携フォーラム2010」が開催されました。

講師に株式会社ジャムコの代表取締役副社長 遠藤 怜 氏を迎え、「国内航空機産業の一翼を担う(株)ジャムコの航路」と題した講演が行われました。出席者は定員を大幅に超える160名を数え、意見交換会では国内航空産業界の現状、今後の事業展開や連携のありかたについて、熱のこもった議論が行われました。



東北6県をイメージした
TAIFのロゴ





東北分析・計測科学技術コンソーシアム(TCAST) 総会・講演会・研究会

2月18日 産総研 東北サテライトにおいて、「東北分析・計測科学技術コンソーシアム(TCAST) 総会・講演会・研究会」を開催しました。

総会に続いて、産総研 齊藤 敬三 コーディネータによるディーゼル排気ガスに関連する気中粒子状物質の計測についての講演が行われました。

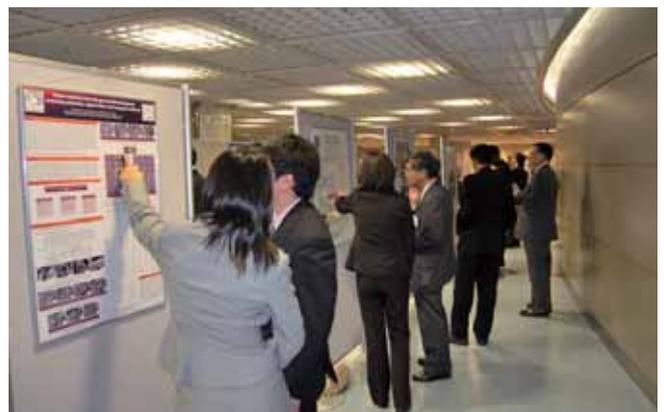
また、一般企業・大学・公設研からなる会員により、各種研究開発プロジェクトの立ち上げを目指した研究会が行われ、会員間で今後どのように連携をすすめるかについて、熱心な話し合いが行われました。



Symposium on Advanced Composite Materials/ 第4回 Clayteamセミナー

2月24日 仙台市情報・産業プラザにおいて、産総研コンソーシアムClayteam主催による”Symposium on Advanced Composite Materials”/「第4回Clayteamセミナー」を開催しました。

国内外から講師を招き、複合材料の最先端の研究結果が発表されたほか、1932年に工芸指導所で発明され、現在は宮城県の伝統的工芸品に指定されている「玉虫塗」の紹介が行われました。また、講演会に続き、関係企業や研究所による32のポスターセッションが行われ、どのブースでも最新の情報を得ようと様々な質問が飛び交いました。





GIC報告総会および特別講演会

2月22日 産総研 東北センターにおいて「グリーンプロセスインキュベーションコンソーシアム（GIC）報告総会および特別講演会」を開催し、企業・研究者会員併せて50余名の方が参加されました。

報告総会では、活動報告、会計・監査報告、平成23年度活動計画概要を報告し、平成23年度のGIC活動継続とともに会員からの承認を得ました。また、会員向けサービスとして、セミナー資料・リンク集などを収録した「AIST活用ナビ」CDを配布しました。

引き続き行われた特別講演会では、パナソニック電工株式会社 中川 尚治 氏より「パナソニック電工の環境への取り組み」について、東北大学多元物質科学研究所 京谷 隆 教授からは「鑄型炭素—構造と機能」についてご講演を賜り、活発な質疑応答が交わされました。

平成23年度も産学官連携の強力なプラットフォームとして積極的な展開を図っていく予定ですので、皆様の一層のご支援をお願いいたします。



「AIST活用ナビ」CD
セミナー資料・リンク集などを収録

第4回 産総研・新技術セミナー

2月25日 産総研 東北サテライトにおいて「第4回 産総研・新技術セミナー」を開催しました。

今回は「産総研の新しい半導体関連技術」をテーマに、先進製造プロセス研究部門 集積加工研究グループ 佐藤 治道 主任研究員による「極微量な流量を精密に測定できる超音波流量計の開発」、また、ダイヤモンド研究ラボ 鹿田 真一 研究ラボ長による「究極のサステナブル材料『ダイヤモンド』のウェハとデバイスの状況—パワーデバイスから圧電デバイスまで—」の2講演が行われました。講演終了後の質疑応答の時間には会場から活発な質問と意見が出され、大変有益な情報交換の場となりました。

本セミナーは今後も随時最新のテーマで開催いたします。どなたでも無料で参加できますので、東北サテライトホームページをご確認ください。

http://unit.aist.go.jp/tohoku/asist/B13_shingijutsu/index.html

(東北サテライトHP)





産総研ありす

研究情報

プレスリリース

発見！天然ガスを含む新鉱物『千葉石』

ちばせき

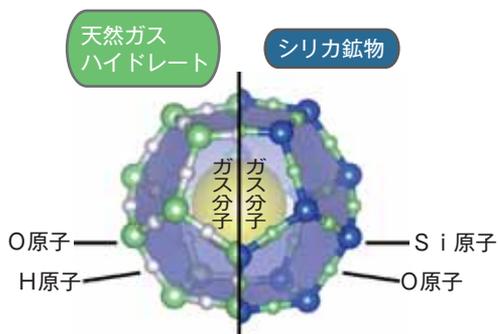
—天然ガスハイドレートと相似な構造を有するシリカクラスレート鉱物—



産総研コンパクト化学システム研究センターと(独)物質・材料研究機構は、千葉県立中央博物館、国立大学法人東北大学およびアマチュア研究者と共同で、千葉県内で採取された鉱物が新鉱物であることを突き止め、『千葉石』と命名しました。千葉石は、ケイ素原子と酸素原子から構成された『かご』状の結晶構造を持ち、『かご』の内部にはメタンなどの分子が閉じ込められています。この結晶構造は、同じく『かご』状の構造を持つ天然ガスハイドレート中の水分子を、ケイ素と酸素で置き換えた構造に相当し、主成分にメタンを含む鉱物としては世界で2例目の発見です。

千葉石は、天然ガスハイドレートの起源や、プレートテクトニクスに伴う地球規模での炭素循環を解明する上で、新たな物証となる可能性を秘めています。

千葉石は、天然ガスハイドレートの起源や、プレートテクトニクスに伴う地球規模での炭素循環を解明する上で、新たな物証となる可能性を秘めています。



天然ガスハイドレートとシリカ鉱物の結晶構造の比較

みてね！20万分の1地質図幅を掲示

ずふく

—国内で最も詳細な広域地質図—



産総研でれす

20万分の1地質図幅とは国土の基本情報図で、産総研(つくば)地質調査総合センターが既存の地質図を野外調査で補完しつつ最新の地質学的知識をもとに編集し作成したもので、50年余の年月をかけ2010年に全国整備が達成されました。この図幅は地層や断層等の情報を得られるばかりでなく、公共工事や防災対策などの重要な基礎データとしても活用されています。

このたび、当センターにも東北地域の現縮尺の地質図幅(2.4m×1.7m)を掲示することになりました。近日中にOSL棟の壁面に掲示予定です。



産総研 東北 Newsletter No.34 平成23年4月発行

編集・発行 独立行政法人 産業技術総合研究所
東北産学官連携センターニュースレター編集委員会
連絡先 〒983-8551 仙台市宮城野区苦竹4-2-1
TEL: 022-237-5218(直通) FAX: 022-231-1263
E-mail: t-koho@aist.go.jp URL: http://unit.aist.go.jp/tohoku/

*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

AIST04-E00006-34